

広島アートプロジェクト 2008

HIROSHIMA ART PROJECT 2008 : Brackish Water Area

汽水域



開催結果報告書

「汽水域」

開催期間：2008年11月1日 - 11月16日

主催：広島アートプロジェクト実行委員会

共催：広島市立大学、財団法人広島市ひと・まちネットワーク、
広島市吉島公民館、広島ボートパーク株式会社

助成：平成20年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業、財団法人文化・芸術による福武地域振興財団、
独立行政法人日本万国博覧会記念機構、財団法人アサヒビール芸術文化財団、財団法人朝日新聞文化財団、
社団法人中国建設弘済会

特別協賛：アサヒビール株式会社、株式会社カンサイ、株式会社きなり

協力：アサヒの森環境保全事務所、財団法人ひろしま文化振興財団、広島市中区社会福祉協議会、
広島市中区吉島学区社会福祉協議会、広島市中区吉島東学区社会福祉協議会、
韓国梨花女子大学校芸術大学（韓国）、ベルリン・ヴァイセンゼー美術大学（ドイツ）、
リヨン国立高等美術学校（フランス）、エプソン販売株式会社

後援：広島市中区光南4・5丁目町内会、財団法人広島市文化財団

ディレクター 柳 幸典



総入場者数：16日間延べ4817人

展覧会終了にあたって

広島アートプロジェクト2008は、「汽水域」を総合テーマに掲げ、11月1日より11月16日までを会期として開催されました。このプロジェクトは、昨年度開催し好評を博した「旧中工場アートプロジェクト」の継続企画となり、広島市中区吉島地区を中心とした地域型展覧会「旧中2」と、旧日本銀行広島支店を会場とした国際型展覧会「CAMP ヒロシマ」の2つの企画により構成されました。

吉島地区は山から集められてきた川の流れと、海から押し寄せる潮汐流との二つの流れが共存する場所です。ここでは吉島地区に隣接するボートパークをメイン会場とし、趣向を凝らした様々な作品がせめぎ合い、水の都広島の名にふさわしい景色が広がるこの区域で、アートが汽水域へ、そして地域へと浸透していきました。

一方、旧日本銀行広島支店で開催された「CAMP ヒロシマ」では、地域プロジェクトと一線を画し、国際的な視点で「ヒロシマ」を捉えた展覧会です。ここでは、韓国、ドイツ、フランスをはじめとする各国若手アーティストが吉島に滞在し、多様な種類の言語が交わされるさなかでの作品制作となりました。多大な文化交流に繋がったこの「CAMP ヒロシマ」は、国際平和文化都市としての「ヒロシマ」の役割を再認識できた展覧会であったといえます。

また同会場内では旧中2特別企画とし、旧中工場をアートセンターとして仮想した模型が設置されました。前回開催された「旧中工場アートプロジェクト」の会場であり、遊休施設である旧中工場の模型は、模型という名の範囲を超える程のスケールで表現され、内部では平和へのメッセージ性を伴った、映像作品、及び、愛をテーマとした展覧会が開催されました。

企画 1



開催期間：2008年11月1日 - 11月16日

会場：ボートパーク広島、広島市中区吉島学区・吉島東学区各所、旧中工場（裏壁面）、
広島駅南口前愛友市場 きくや商店

参加作家：23組 27名

総入場者数：16日間延べ 2728人



浅井裕介《泥絵・汽水域の樹》ボートパーク広島：撮影 鹿田義彦

参加作家

相澤 和広、Antenna、浅井 裕介、福田 恵、福永 敦、開発 好明、北川 貴好、荒神 明香、黒田 大祐、丸橋 光生、中村 敬
中崎 透、西野 正将、小原 一洋、ダヴィッド・ポルツィン、坂口 直也、先崎 哲進、シフン製作所+三上 賢治、SUIKO
高須 健市、田中 英行、マティアス・ヴェルムケ、祐源 紘史、他、藤 浩志監修によるワークショップ作品

企画 2



開催期間：2008年11月1日 - 11月16日

会場：旧日本銀行広島支店

参加作家：24組 26名

総入場者数：16日間延べ 1980人



マティアス・ヴェルムケ+ミーシャ・ラインカウフ 《合間に》：撮影 友枝 望

参加作家

シャルロット・ボンジュール、チャン・ファジン、パウル・ダリウス、マライケ・ドロブニ、藤原勇輝、古堅太郎

ナオミ・ヘニヒ、チョン・ソンジュ、カン・アイラン、キム・ホンシク、セバスチャン・ルセニョール、増山士郎、的場智美

大田祐子、ミヒヤエル・オットー、イレーネ・ペツーク+エリック・アルブラス、ダヴィッド・ポルツィン

ダミール・ラドヴィック、鹿田義彦、下西進、タノタイガ、アクセル・テップファー

マティアス・ヴェルムケ+ミーシャ・ラインカウフ、ユ・ミヨン

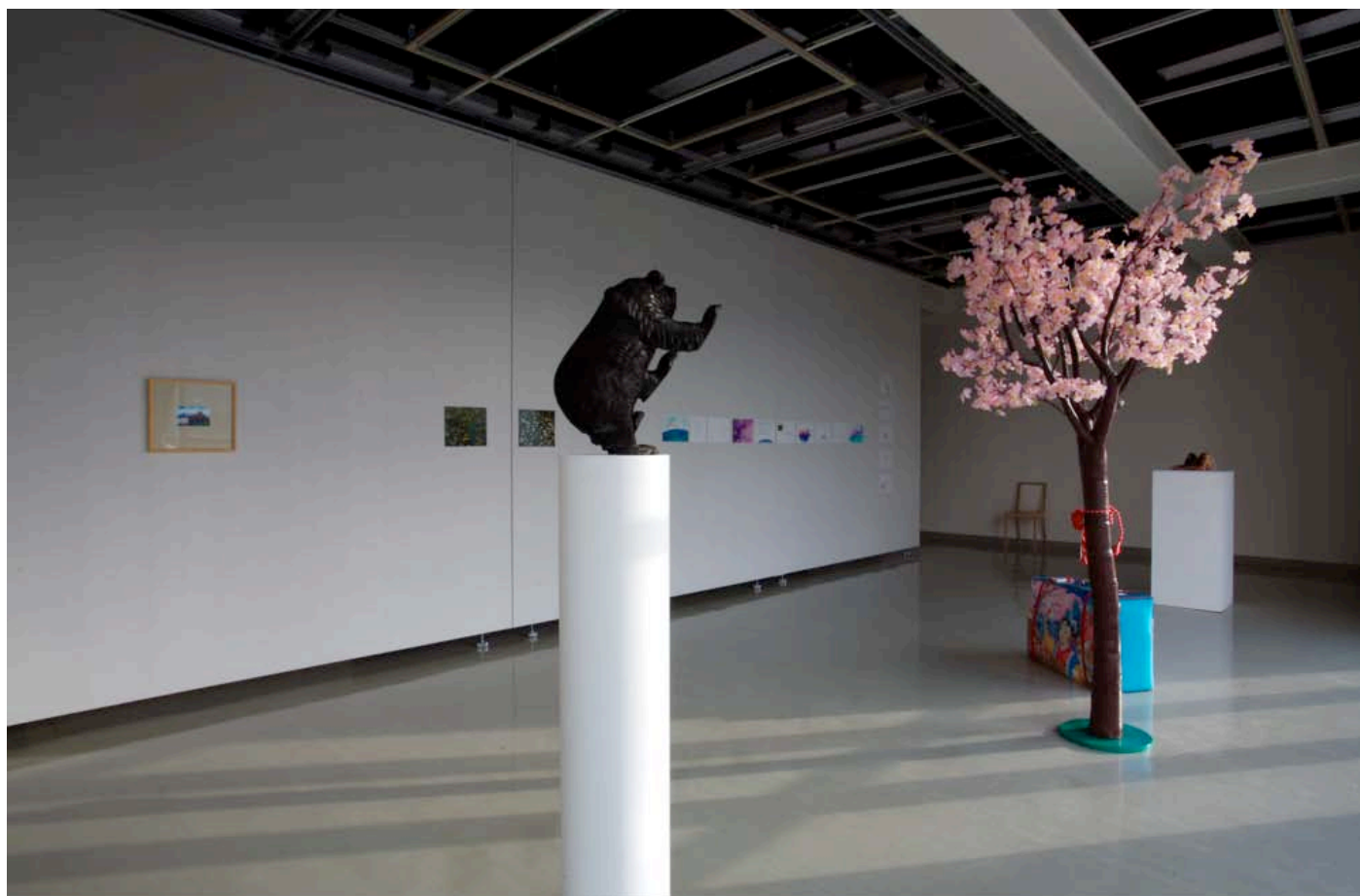
サテライト企画

CAMP ベルリン アーカイブ展

開催期間：2008年11月1日 - 11月10日

会場：広島市立大学芸術資料館

総入場者数：10日間延べ109人



広島市立大学芸術資料館、会場風景：撮影 鹿田義彦

参加作家

トーマス・アデバー、アンドレア・ツイーマン+エンプファンクスハレ（コルビニアン・ベーム+ミヒャエル・グルーバー）
エリック・アルプラス+イレーネ・ペツーク、エディン・バイリック、マリー＝ルイズ・ビルクホルツ、福田 恵、古堅 太郎
ニコラス・グリマー、ヒロミ+シゲ フジシロ、ジリアン・ホルト、入江 早耶、開発 好明、木村 華苗、オフィリ・ラピド
パウリーナ・レオン、ジルビア・ローレンツ+アレクサンドラ・ジェストロビク・オラ・ジャメスディン、増山 士郎
沖中 志帆、大津 達、ダヴィッド・ポルツィン、ソフィア・ポンペリー、流水 彩子、鹿田 義彦、シフン製作所、高橋 知奈美
友枝 望、シラ・ヴァックスマン、カロリン・ヴァハター、ラウル・ヴァルチ、マティアス・ヴェアムケ+ミーシャ・ラインカウフ

本年度2月にドイツ、ベルリンにて開催された展覧会「CAMP Berlin」の日本巡回展にあたるアーカイブ展は、広島市立大学附属芸術資料館にて11月1日から11月10日までの10日間開催されました。ベルリンで開催された現地展覧会の様子を克明に記録したドキュメント映像、並びに、出品作家のインタビュー映像が新たに加わり、広く学内に向けた今後の広島市立大学とベルリン・ヴァイセンゼー美術大学の大学間交流の展望を示唆しました。

広島アートプロジェクト 2008 開催イベント一覧

広島アートプロジェクトスクール 「Vol.1 公開プレゼン&カンボジアでの制作活動の報告」

日時：2008年8月21日 13:00/場所：広島市立大学/講師：寺澤伸彦 (DIG&BURY)、中村研一



広島アートプロジェクトスクール 「Vol.2 地域活性化にアート/デザイン/活用する方法」

日時：2008年8月23日 18:00/場所：ポートパーク広島ギャラリー/講師：中村敬



広島アートプロジェクトスクール 「Vol.3 公開プレゼン&レクチャー」

日時：2008年9月1日 17:00/場所：広島市立大学/講師：相澤和広



旧中2 中崎透 看板依頼大会

日時：2008年10月10日、11日

場所：広島市吉島公民館



CAMP ヒロシマ ナオミ・ヘニヒ レクチャー

日時：2008年10月19日

場所：広島市立大学



CAMP ヒロシマ ナオミ・ヘニヒ 「応答せよ！ヒロシマ」ワークショップ+パフォーマンス

日時：2008年10月19日

場所：広島市立大学、広島市中区平和記念公園脇元安橋



旧中2 亀型カヌー作り ワークショップ

日時：2008年10月25日、26日

場所：広島市吉島公民館



旧中2/CAMP ヒロシマ オープニングツアー

日時：2008年11月1日 11:00- / 場所：旧日本銀行広島支店



CAMP ヒロシマ 連日《Dates 2007/03/01-2008/11/16》

会期中ドイツ・ボン市に在住のマライケ・ドロブニより 11/1-11/16 の GPS データが追記展示されました。

GPSデータの一覧表が印刷された紙が複数枚並べられている様子。表には日時、緯度、経度などの情報が記載されている。



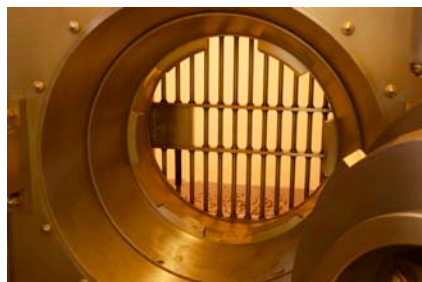
CAMP ヒロシマ 随時《広島 I》

ダヴィッド・ポルツィン（ドイツ）によるパフォーマンスが開催されました。（不定期）



CAMP ヒロシマ 随時《あなたが欲しいものは、あなたが失うもの》

古堅 太郎（日本/ドイツ）による純金のコーヒー豆（作品）贈呈の為のカウン트가開始されました。



CAMP ヒロシマ 11月1日-11月3日《KITE ください》

アクセル・テップファー（ドイツ/オーストリア）による公開制作開催

日時：2008年11月1日 11:00 - / 場所：旧日本銀行広島支店



旧中2/CAMP ヒロシマ オープニングパーティー+荒神明香《クラッカードロ잉》

荒神明香によるパフォーマンス《クラッカードロ잉》が行われました。(19:00)

日時：2008年11月1日 18:00-/場所：ポートパーク広島



連日「ヒロシマのスピリット」上映

マンドリルが広島に捧げる曲を映像とともに広島アートプロジェクトで公開されました。(会期中)

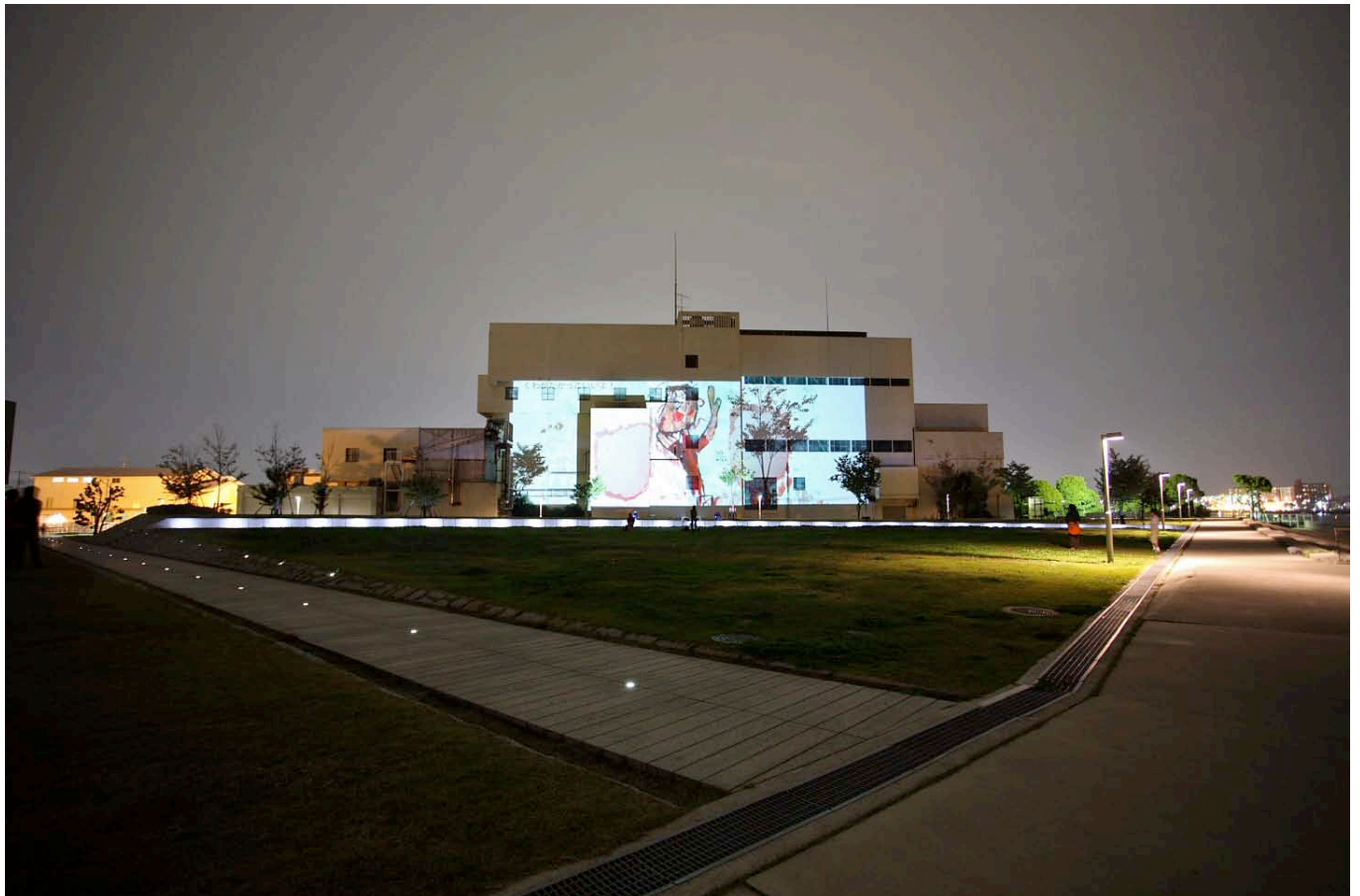


「巨大野外映像シアター」

11月2日、3日、14日、15日

旧中工場裏の巨大壁面に投影する吉島と庄原の小学生が描く
「未来の海辺の風景と山辺の風景」の絵による巨大映像。

場所：広島市環境局中工場横緑地帯



CAMP ヒロシマ 汽水トーク「増山士郎×タノタイガ」

日時：2008年11月2日 15:00 - / 場所：キリン木材ビル1階



CAMP ヒロシマ 汽水トーク「開発好明×古堅太郎×David Polzin×Matthias Wermke」

日時：2008年11月3日 15:00 - / 場所：キリン木材ビル1階



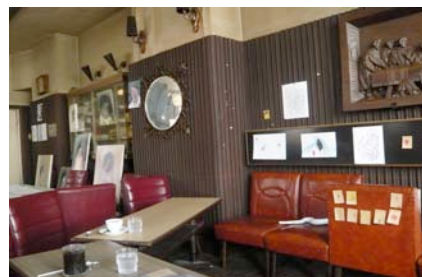
CAMP ヒロシマ 汽水トーク「カン・アイランを囲んでのトーク」

日時：2008年11月4日 15:00 - / 場所：キリン木材ビル1階



旧中2 汽水ファーム「PEARL 水口鉄人、池田和子二人展」

日時：2008年11月6日-16日 / 場所：広島駅南口喫茶店パール2階



CAMP ヒロシマ 汽水トーク「CAMP ベルリン - CAMP ヒロシマ」

日時：2008年11月8日 15:00 - / 場所：キリン木材ビル1階



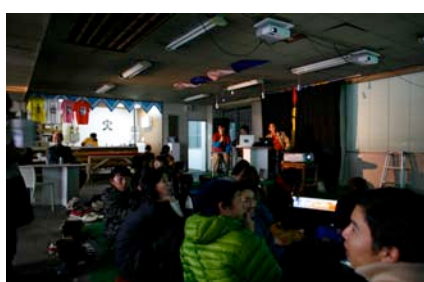
CAMP ヒロシマ ギャラリーツアー in 旧日銀

日時：2008年11月8、9、12、13、15、16日 13:00-15:00-/場所：旧日本銀行広島支店



旧中2 汽水トーク「どうなる!? 1日中藝術會館! - 柳幸典」

日時：2008年11月9日 18:00-/場所：麒麟木材ビル1階



旧中2 汽水トーク「旧中2アーティストトーク/汽水城」

日時：2008年11月10日 18:30-/場所：麒麟木材ビル1階



旧中2 汽水トーク「旧中2アーティストトーク/店長と副店長」

日時：2008年11月11日 18:30-/場所：麒麟木材ビル1階



旧中2 汽水トーク「まるよし/汽水ファームトーク」

日時：2008年11月12日 18:30-/場所：麒麟木材ビル1階



旧中2 小人劇場

日時：2008年11月13日 17:30- /場所：キリン木材ビル1階



旧中2 汽水トーク「旧中2アーティストトーク／坂口直也（シャッター・ガイ）」

日時：2008年11月13日 19:00 - /場所：キリン木材ビル1階



旧中2 汽水トーク「汽水城を支える漢（おとこ）たち」

日時：2008年11月14日 18:30 - /場所：キリン木材ビル1階



旧中2 汽水トーク「しょっぱくない！汽水城 JAMM トーク」

日時：2008年11月15日 18:30 -

場所：キリン木材ビル1階



CAMP ヒロシマ 古堅太郎《あなたが欲しいものは、あなたが失うもの》「純金のコーヒー豆（作品）贈呈」

日時：2008年11月16日 16:00/場所：旧日本銀行広島支店

「CAMP ヒロシマ」が開催されている旧日本銀行広島支店にて、来場 1973 人目の方に本展出品作家、古堅太郎の作品「あなたが欲しいものは、あなたが失うもの」を贈呈。



旧中2 Antenna 《ジャッピー神輿》の練り歩き

日時：2008年11月16日 18:30 -/場所光南4丁目ちびっこ広場



旧中2/CAMP ヒロシマ クロージングパーティー

日時：2008年11月16日 18:30 -/場所光南4丁目ちびっこ広場



主なメディア掲載一覧

新聞

「広島舞台に芸術家競演」『読売新聞』、2008年10月29日、朝刊32面。
有岡英俊「太田川下り 川舟アート」『中国新聞』、2008年10月29日、朝刊13面。
加戸靖史「芸術作品、競演」『朝日新聞』2008年11月1日、朝刊34面
／／／「つながる世界 多国籍アート」『中国新聞』2008年11月2日、朝刊15面
「噴水で空き缶ならず浮島」『読売新聞』、2008年11月5日、朝刊26面。
「アートに触れる」『朝日新聞』2008年11月13日、朝刊31面
西村文「地域密着 現代を映す」『中国新聞』2008年11月13日、朝刊10面

雑誌

光田由里「アートの場所」『美術手帳』、917号206-208項、2009年1月
『市民と市政』、2008年11月
「今年は吉島と旧日銀で街をアートに染め替える」『TJ Hiroshima』、11月号11項、2008年10月
「広島を舞台にしたアートプロジェクト」『Wink』、第181号15項、2008年10月
「汽水域 二つの流れがせめぎあう」『Workin』、第381号67項、2008年10月

テレビ

「TSSスーパーニュース FNN」『テレビ新広島 TSS』、2008年11月5日 18:00-
「ホッと！マガジン」『RCC 中国放送』、2008年11月2日 10:50-

フリーペーパー

岩永真由美「社会や地域とかがわり完成するアート」『Cue (キュー)』2008年10月10日、15面。

Web サイト

角奈緒子「広島アートプロジェクト2008」『art scape』2008年12月
http://www.dnp.co.jp/artscape/exhibition/curator/sn_0812.html

広島アートプロジェクト2008 第7回ヒロシマ賞受賞記念 藝園強展

広島/角奈緒子 (広島市現代美術館)

今回は、広島市内で11月16日まで開催されていた「広島アートプロジェクト2008『汽水域』」をレポートしたい。

プロジェクトのディレクターは、美術家であり、現在、広島市立大学芸術学部准教授を務める柳幸典。柳は昨年にも、広島に残されているかつてのゴミ焼却場（旧中工場）を会場のひとつとして、「旧中工場アートプロジェクト」を企画している。「ゴミ」をテーマに、ゴミ焼却施設で練り広げられた展覧会は、見ごたえのある内容であった。その第二弾ともいえる今年のプロジェクトの総合テーマは「汽水域」。汽水域とは、川が海に注ぎこむ、淡水と海水とが交じり合う広域のこと。 「山と海、ローカルとグローバル、戦争に現実と平和のメッセージ」など、そこにいくつものメタファーを演出することができるという。

昨年のプロジェクト同様、テーマは大きく分けて二つ。会場もいくつかに分かれていた。「旧中2」と題された企画1のメイン会場は、旧中工場を有する吉島地区にあるポートパーク。かつて貯木場であった海域に、いまは大小さまざまなポートが整然と並び、ポートの管理棟の建物（レストランや休憩所もある）、そして、いわばポートの駐車場の横の水路が会場であった。自身もポートを操り、瀬戸内海をポートで移動するという生活を送っていた柳らしい選択に、思わぬ面白さがある。



広島アートプロジェクト2008 汽水域、旧日銀会場

「広島「汽水域」の旧中工場で複合アート展-地域的な視点で企画」『広島経済新聞』2008年11月6日

<http://hiroshima.keizai.biz/headline/470/>

ヘッドラインニュース

広島「汽水域」の旧中工場で複合アート展-地域的な視点で企画

📍 [この記事の場所を見る](#)

(2008年11月06日)



写真を拡大

居酒屋カフェ「中人」店内に設置された色鮮やかな46枚の看板。

広島を地域的な視点から考える展覧会「旧中2」が11月1日から、広島市中区吉島地区で始まった。主催は、広島市立大学の教員や学生が中心となって組織する広島アートプロジェクト。

同展は、昨年4月に開催した「旧中工場アートプロジェクト」の継続企画。現在使われていない旧中工場をアートセンターにすることを目的にしたもので、開催は2回目。テーマに長年の干拓事業で造られてきた水の都広島を象徴する「汽水域」を掲げ、埋立地や戦前から残る干拓の名残が見られる吉島地区に焦点を当て、アートを通して地域を活性化しようと試みる。

海岸に面した「ポートパーク広島」には、捨てきた発泡スチロールで作った「発泡イカダ」や空き缶で作った噴水など作品を浮かべる。普段は入ることができない施設内に入れることから好評だという。同施設向かいのビルには居酒屋カフェ「中人（なかんちや）」を運営し、店内では、看板を作成するアーティスト中崎さんが1枚100円で手がけた飲食や個人の看板4枚を壁面に展示する。アーティストが対談やイベントを行うステージ隣の白い壁面には庄原や吉島小学校の児童が書いたイラストや風景映像、同展のために制作された楽曲「ヒロシマのスピリット」を交互に映し出す。

インターネットで募った参加アーティストは50組。その8割はプロで今回は海外からの参加者もいるという。作品は現地で作り、その地域でしか作れないものを展示している。中盤を迎えた同展で、吉島地区の企画を担当する広島市立大学非常勤助教授の今井みはさんは「人の動線をどうするかが課題」と話す。地元からはプロジェクトを続けてほしいとの声もあり、来年も継続して開催する予定。

カフェ営業時間は11時～20時。開催は今月16日まで。問い合わせは広島アートプロジェクト (TEL 082-830-1635) まで。

「広島アートプロジェクト 2008 「汽水域」」『ブンカッキーネットひろしま』2008年11月

<http://www.bunkacky.jp/event/detail.php?list=2&id=5707>

「今秋、「水の都」広島でアートを！」『ひろしま文化大百科』、2008年10月3日

<http://www.hiroshima-bunka.jp/modules/news/article.php?storyid=29>

会期中に実施したアンケートからの主な意見

【プロジェクトの感想・評価】

- 身近でアートプロジェクトがあって楽しい。
- 汽水域に目をつけられたのが良い。(デルタの町)
- 今回来てみて、自分の日常と結びつけたり、連想させられたり。色々と感じるものがあったから、こどもたちに観に来てもらいたいと思います。
- 作品レベルが高かったのに驚いた。作品も親しみやすいのが多かった。空間をととてもよく利用してるのに驚いた。
- プロジェクトをあらかじめ知ってくる人だけでなく、たまたま通りかかった人でも楽しめる点が良かった。また、昔からある建物を利用するなど、地域になじみのあるものを利用し、かつ中身は新鮮なものだったこと。
- ボートパークと一体となっている点が良かったです。
- 歩き回って観て触って、体感できる作品が多かったことが良かった。

【広島市の芸術文化の発展への期待】

- このようなアートプロジェクトが広島市の芸術文化の発展に貢献すると思う。(同様の意見多数)
- アートを提供するだけでなく、見る側(市民等)をどう取り入れるかで発展につながると思う。
- 老若男女問わず参加できるものがよい。
- 雁木タクシー、ボートパーク等広島市とは密接な関係にあるので、このアートプロジェクトが架橋となっているのでまさに貢献しているのではないのでしょうか。
- アーティストや造形作家等ではない人々へ芸術を考えてみることを提供していると思います。
- こういう事をやっている人が、広島に住んでくれると毎日が楽しく思える。どんどんやって欲しい。
- 広島ならではの発信で大いに意味がある。
- 広島で今回のように作品と触れられる機会は残念ながら少ないので、このプロジェクトは発展のきっかけになると思う。
- もう少しお金があれば、興味を持つ人も増えて、文化として成り立つとは思いますが。
- 東京では当たり前にあることなので、広島でも世界レベルの展示をやるのは芸術文化の発展にいいと思う。
- 広島全体がアートストリートになると素敵だと思います。
- 少なくとも問題提議になっていると思う。
- いろんな刺激を受けるから、アートプロジェクトは発展に貢献すると思う。今後も活動をして欲しいです。
- 行政の住まわせる視点と住民の住む視点以外のアーティストの芸術からの視点があるのはとても良いと思います。
- 広島のまちづくりはあまりに無意味な物事が多すぎて、広大跡地、市民球場跡地、そして西飛行場、まもなく跡地で、いっそ冗談でしょうという事のほうが意味あるって思います。
- 今まで知らなかった広島のまち、建物を知る事が出来てよいと思う。
- こんな風に日常、歴史、非日常を行き来できる機会はあまりないので、素晴らしい。
- まちづくりとは違うかもしれないが、平和を訴える上で、役には立つと思う。
- 「親しみ易さ」「市民の生活にとりこみつつ、発信する力」それを間近でみて、感じられることで、「特別なものではない現代美術」と市民にアピールできる。それで認知度が高まれば「人を動かす(経済的にも)求心力」になると思いました。

【地域展開型の展覧会について】

- 興味のなかった人にも見てもらえる。幅広くアプローチできる。
- 地域で展開し、市民と密接に関わることで、まちづくりに役立つと思う。美術館の展示内容にもっと自由度があれば良いが、やはりこのようなプロジェクトの方が地域と密接に関われると思う。
- 地域の人、住民の人の協力が必要だと思います。
- 美術館は、かたいイメージがあって小さい子どもを連れて行くのは難しいけど、町内などでアートプロジェクトが展開されると、街も明るくなるし、これからも続けて欲しいです。

- 普通の人が普通に必要とし求めるようになれば良い。
- 無料で入館できるので良い。
- まちづくり！？にはならないと思うけれど、一つの祭りにはなりそうです。少しわくわくする待ち遠しい感じで。もっと普通に浸透してゆけばいいなと思います。
- 美術館での展示はできる人が限られます。若い人達の発表の場が多くあればと思います。
- 自分の住んでいる町ならではの施設でアートプロジェクトが行われると、芸術を身近に感じることができると思う。
- 新しい気付きの機会を与えてもらえて良かった。ポートパーク広島のように新しくできた場所に行くきっかけになるので良い。来年は、湯来ロッジオープンが11月頃なので、是非温泉や里山をテーマにして欲しい。水内川や太田川、巨木の千年杉（安佐町）や四本杉（湯来町）もPRになればよい。
- 「視点」の違う方が町の中に脚色をつけることで何か新しいベクトルが生まれるように考えています。
- イベント回数が多いと皆に良い刺激になると思います。
- 実際に様々な場所でアートプロジェクトが開かれていて、成功例もあるとは思いますが、やり尽くされた感も否めません。目新しさが足りない。もっと市民の興味を引けば町の活性化も可能性があるとは思いますが。
- 既存の施設だと発信者と受信者が固定されているが、アートとはそれ自体がアートだと気付かないくらい身近なものであるべき。
- 美術館は割と入場料が高いし、その点こういうアートプロジェクトはいろんな人が来易いし、古い物を大事にしようとするチャンスになります。
- 地域の人をまきこんでいくので、分かりにくいと思われる現代アートを身近に感じることができるようになり理解も深まっていくと思われます。

【国際的な展覧会について】

- 場所が元銀行という点がとてもいいです。
- 世界各国のアーティストが広島の空間で、作品を創造することが興味深い。国際交流の一端としてこれからの活動に期待。
- 世界の「ヒロシマ」としての町づくりに役立つと思う。
- 海外のアーティストの作品が多く期待していたより良かった。
- 海外のアーティストと、少しですがお話ができたことが良かった。

【遊休施設の活用について】

- とても良いと思う。(同様の意見多数。)
- 遊休施設を使って、アートを創造するのはすごく良い。
- こういう機会がないと知られない場所だし、入らないと思うので良いと思う。
- 世界のアートが盛んな街では旧工場等をアートセンターにリノベーションする動きが増えているので、そのようなものを日本でも取り入れていくべきだと思う。ただ、形式ばったアート利用というより、ある程度自由度があったほうが良いと思う。
- あえて美術館でやるよりも生活や地域の人々の目に触れて意味のあることだと思う。
- 何にもならず（使われず）廃墟になるより全然いいとは思いますが。
- ネットワークの核として位置づけるなら良い。
- 旧日銀は被爆建物なので利用価値があると思います。
- 今回は、中工場の中を使っていなかった様ですが、前回の様に利用させてもらったら面白いと思う。完全にアートセンターとしてではなく、違う人だけど、アートにたまたま利用したいという意外性が良いのではないのでしょうか。
- 歴史を感じながら回れるのでとても興味深い。
- とても良いとは思いますが、アートオンリーというのはいかがかと。様々な可能性を捨てるみたい。
- 素敵な提案。常に何かおもしろいことが起こっていたり、知らない世界と触れられる様な場所としてあって欲しい。広島そういうところないし。

- 施設自体のインパクトが強いため、展示作品のバリエーションが限られてるいるかも。
- 常にアート展示…というよりは、多様なイベントをしてほしいので、アートセンターだけの活用にはあまり賛成できない。
- 旧中工場の事を知らないのではなんともいえないが、旧日銀は従来通りアートとそれ以外のイベントも利用し、様々な分野の問題を考える場となって欲しい。
- 建物自体も芸術的価値があって良いと思う。
- 箱も大事だと思うが、周りをもっと固める必要があると思う。

【改善点について】

- トータルインフォメーション不足。(同様の意見多数。)
- もう少しわかりやすい作品の説明が欲しい。(同様の意見多数。)
- 他県から来て、広島駅に降りたらそこから自然に足が運ばれる順路がないと思います。
- 中心地に行って地図をもらうまでわかりにくかった。
- 展示の場所がわかりづらかった。

【今後のプロジェクトに期待すること】

- とりあえず旧中をシリーズ化。そして、他の公共施設をどんどんジャックして欲しいです。
- 当日にワークショップ的なものをたくさん取り入れてほしい。
- 幅広い系統の作品・企画を楽しみにします。
- 瀬戸内海アートプロジェクトに発展して、広島のリーダーシップに期待します。瀬戸内海国立公園を瀬戸内海芸術講演に。観光省のシンボル施策に！
- 思い出したくない人に思い出させて苦しめることなく、かつ、若い世代の私たちが考えさせられて印象に残る企画。
- 地元の若いアーティストにどんどんチャンスあげたいです。これからも頑張ってください。
- 千田の旧広大跡地、または現球場を使用して欲しい。どちらもメッセージ性強い場所と思うから。
- 来年も吉島でやるならば、もっと目立つような、インパクトのある展示が見てみたい。
- 現代、現事のリアリティを感じさせるもの。未来をえがくもの。

告知！！

2009年

広島アートプロジェクト 2008 「汽水域」

展覧会カタログ発行予定！！